

まじろ通信

こころを込めてお届けします

11月号

発行所:コスモグループ本部 発行日:2008年11月1日(毎月発行・通巻17号) 井野屋 <http://www.inoya.co.jp> 西榮寺 <http://www.saijiji.jp>

「笑って、泣いて、感動の一日」

西榮寺 院代
榎本 勝彦

何年振りでしょうか・・・。なにか大げさな言葉から始まりましたが、それ程の感動を受け取った映画館でのお話です。「おくりびと」という日本映画を見ました。納棺師というお亡くなりになった方をきれいにし、棺へ納める仕事に就いた主人公が、生きること、死ぬと言ふこと、家族の絆など、様々な場面で成長していく姿をえがいた素晴らしい作品でした。笑いました、泣きました、感動しました。生きていくということは、いつの日か死を迎えるということ。言われなくても誰もがわかっている当たり前のことです。しかし、そのことに向き合う方が少ないように思います。いつその日が来るかわからない命を生かされている私たちです。



榎本先生へのなんでも相談
直通メール enosan1125@ezweb.ne.jp

生きていくという実感をお持ちですか。こう言っている私もだらだらと過ごしている時間が多いなーと今回気づかされたわけです。気づいたならば直すだけでOKです。要は気づけるアンテナのはり方とすぐに直せる素直さではないでしょうか。ぜひ多くの方に見てほしい映画です。

ところで映画館の変わりようにもビックリしました。全席指定、慌てることなくゆったり座れ、シートも豪華なものでした。私が子供のころは、急いで席を確保してポップコーンを片手にジュースやパンフレットと走り回っていたように記憶しております。そんな時代をなつかしく想いながら、今日の感動をみなさんと共有できれば嬉しいなあーと感じた一日でした。

こころと体の健康を考える

コスモグループ

コスモス(秩序ある統一を持った宇宙の意)グループは、生命の誕生から次の世代に至るまで、心とからだの健康を考える冠婚葬祭サポートクラブです。

コスモグループ本部 ☎06-6698-7675

大阪市東住吉区駒川5-6-1
井野屋駒川店4F

受付/10:00~18:00
定休日/火曜(お葬儀の受付は年中無休24時間対応しております)

応募者
全員に

キーパーズオリジナル・エンディングノートプレゼント

自分の最期は必ず誰かのお世話になるんですよ。だから出来るだけご遺族に負担をかけないように、自分の意思や希望を書き記しておく事は、貴方に出来る家族への最後の思いやりといえるのではないのでしょうか…。ご自身のご希望やご両親へ差し上げたい方はどうぞお申し込みください。

住所、氏名、年齢、電話番号をご記入の上
FAX0566-28-0032キーパーズ本社
プレゼント係までお申し込みください。



キーパーズ最新情報
吉田太一 著書 第3作目10月18日発売
「おひとりさまでもだいじょうぶ」ポプラ社
好評発売中
「遺品整理屋は見た!」扶桑社
「遺品整理屋は見た!!」扶桑社



特報

11月3日(月・祝) 18時17分~18時54分、朝日放送の「NEWSゆう」にて榎本先生所属の西榮寺が21世紀の革新的なお寺として紹介されます。どうぞご覧になられてください。

まじろ インフォメーション



毎月第2・第4土曜
13時~17時
鑑定ブース開催中
料金:一人5,000円

● 須田 志乃ぶ 先生

第三回気学教室 (一般コース)

気学とは・気学の活用法等、知って得するあなたの運勢

日時 11月14日(金)
13時~14時

第四回気学教室 (一般コース)

次回 12月22日(月)
13時~14時

場所 コスモサロン 料金:無料(要予約)

個別鑑定:一人3,000円
(予約制・セミナー終了後個別鑑定いたします)



● 松下 晋武 先生

陰陽五行に学ぶ松下塾

自らを動かすことで運が開けます、どうぞ気軽に会場へ足をお運びください。

日時 11月17日(月)
13時~14時30分

次回 12月15日(月)
13時~14時30分

場所 コスモサロン 料金:無料(要予約)



● 榎本 勝彦 先生

仏教講座その3

仏教とは?お釈迦さんって?お経って?お寺って?法事って?現代に役立つ仏教を榎本先生が面白く、やさしく教えてくださいます。

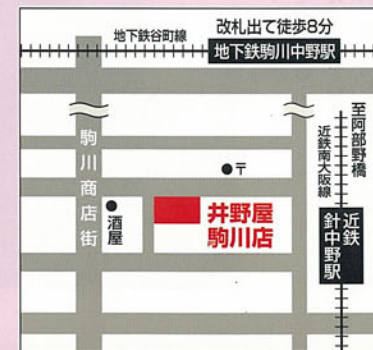
日時 11月21日(金)
13時~14時

※12月は休講いたします。

場所 コスモサロン 料金:無料(要予約)

もしものときは...

24時間 365日
コスモグループ
06-6698-7675
葬祭部まで



コスモサロンは
井野屋駒川店4F
☎06-6698-7675

■近鉄南大阪線「針中野駅」
下車 徒歩2分
■地下鉄谷町線「駒川中野駅」
下車徒歩8分

※まごころ通信12月号は、お休みさせていただきます。
なお、来年1月号より隔月発行とさせていただきます。

いい人、いい物、数珠つなぎ

心を込めて
天国へのお引越し
吉田 太一
いい人File
No.15

遺品整理を専門に取り扱う企業があることをご存知ですか。親との同居がはるか昔のことのように想われる近年、一人暮らしや近所付き合いの断絶等により、人知れずお亡くなりになる方が増えている現実があります。そんなときにご遺族の力になり遺品を整理してくれる会社があり、テレビ・新聞・雑誌等で注目を集めております。今回はその「キーパーズ」の創業者である吉田さんをご紹介します。



榎本 本日は今メディアで話題の遺品整理専門会社を日本で初めて創業されました「キーパーズ」の吉田社長にお話をいただきました。ありがとうございます。本来身内が行ってきた遺品整理をなぜ専門業者に依頼するのか、などの現状をお聞きしたいと思います。吉田さん宜しくお願いします。

吉田 こちらこそ宜しくお願いします。

榎本 はじめに会社のご紹介と設立の経緯などお聞きかせ願いますか。

吉田 はい、私どもの「キーパーズ」はお亡くなりになられた方のご自宅のお片付けのお手伝いを専門とする会社として6年前に設立しました。当時私は引越センターやリサイクル店を経営していました。そんな時、偶然見慣れたお伺いした方のご依頼がお父様の遺品のお片付けだったので。しかし、その依頼内容は、形見分けの品を見弟の自宅まで届けてほしいというだけのものでした。しかし、部屋には沢山の遺品がまだ残っていたのです。私は、そこで他の遺品はどうされるのかをお尋ねしました。するとこれらリサイクルショップや便利屋さんを探すと、この遺品は「本当に全部お任せしていいのですか?」とびっくりされたと同時に大変喜んでくれたのです。同居していない遠方に住まいの遺族にとって「遺品整理」に費やす時間や人手の確保は大変難しい問題になっていたのです。

榎本 その時に気づかれた訳ですね。

吉田 そうなんです、当時は全てをワンストップで受けてくれるという発想は世間にも全くなかったんです。それで私は「これだ!」と思い、全ての「希望をお届け出来る会社を作ろう」と思いました。

榎本 しかし、様々な現場があつてご苦労された事もあるんじゃないですか?例えば発見が遅れた方や自殺現場なども想像するだけで大変な作業だと思いませんか?

吉田 はい、確かに死後数日で発見された方の自宅の整理はキツイものがあります。私も一番初めの頃は、キツイ死臭を嗅いだ途端に内心「やばい!」と思いつつ逃げ出しそうになりました。(笑)しかし作業を終えた後に頂けると遺族からの感謝の言葉を何度も聞くと、使命感と言うか何とかしてあげなければいけないという意識が出てくるんですよ。榎本 なるほど、「遺族に頼られると、断れない」本当に困っている人を助けるという使命感というか、親身になってお仕事をされる事は大切なことですね。そのお気持ちが伝わるからこそ、この6年間という短い間で大阪、東京、名古屋、福岡の4支店の開設へと全国でのキーパーズさんへの要望が急激に増え

たということでしょうかね。

吉田 そういつてくださると、ありがとうございます。

榎本 ところで吉田さんは遺品整理の現場を描かれた「遺品整理屋は見た!」という本を出版され、テレビドラマにもなっているとお聞きしましたがなぜ出版されようとお考えになったのですか?

吉田 実はみなさんに現実の出来事を知って頂く事によって、孤独死等の予防や対策に役立てて頂きたいと思い「現実ブログ」というブログを書いていたのです。それが半年後には、毎日1000人以上の人が見に来るブログになったのです。そして数社の出版社からお話があつたのがきっかけなんです。

榎本 という事は吉田さんのされているお仕事に、時代が反映されているという事ですね。少子高齢化や核家族化などが深刻な現代社会では、孤独死や遺品整理という言葉にみんなが反応していたのでしょうか。それを現場で体験した吉田さんがレポートした記事に説得力があり社会が衝撃を受けたのですね。

吉田 そうかもしれませんね。私自身この仕事をやるまでは孤独死なんて他人事だと思っていましたから。



榎本 吉田さんは現在オリジナルのエンディングノートを作られたり、著書の中や講演会などで「孤独死を防ぐ取組や生き方」を伝えておられますよね、これは大変素晴らしい社会貢献だと私も思います。しかし、単純にビジネスとして考えれば、孤独死を減らすということはキーパーズの仕事を減らす事になつてしまうように思うのですが?

吉田 たしかにそう言われればそうなんです。私は経営者でもありますので社員の給与も稼がなければいけません。キーパーズはボランティア組織ではありませんから。しかし、悲惨な孤独死現場を日本で一番たくさん見てきた者として、仕事が増えたからと言って喜ぶことはできなくなつたのです。だから本当に私達の活動によって孤独死を減らす事が出来るのであれば、この仕事は無くなるかもしれないが、その時はまた何か役割を与えてくれるとひそかに思っています(笑)

榎本 私もそう思いますよ(笑)、けど今のお言葉聞いて安心したと言いますか吉田さんの優しさが心に響いてまいりました。

吉田 ありがとうございます。あつ、忘れないうでくださいね、その時はお世話になるかも知れませんので宜しくお願いします(笑)

榎本 えっ!吉田さんが僧侶ですか?それはいかが(笑)

吉田 どうして今から拒否なさるんですか?それはいいですよ(笑)

榎本 ほんとやね、その時はぜひお越しください。最後に吉田さんにびっくりさせる情報があるんですよ。吉田さんは大阪の桜ノ宮高校の体育科を卒業されたとお聞きしていますが、実は私も桜ノ宮高校出身なんです。吉田 えっ!本当ですか、あつそう言えば、



もしかして柔道部の...。

榎本 憶えてくれていたんですか。

吉田 はい、思い出しました。一年先輩ですよ!驚きました。まさか僧侶になられていたとは、これはすごい縁ですね。

榎本 私も初め吉田さんをTVで観てびっくりしましたよ、お互い人間の命に係る関係で、これからの親交が深まりそうですね。今後ともよろしくお願います。

吉田 こちらこそ、宜しくお願いします。

